

第614回番組審議会報告

2017年1月10日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長 佐藤卓己委員 津村記久子委員
中野健二郎委員 東野博昭委員 細見良行委員 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 宮田取締役 浜田取締役制作局長
上野プロデューサー 赤澤ディレクター 大牟田コンプライアンス室長兼
番組審議会事務局長

◆議事の概要

1. 年頭社長挨拶
2. 審議事項

テレビ番組「メッセンジャーの〇〇は大丈夫なのか？」

(2016年11月24日(木) 23:58~24:53 放送) について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * どの企画もごく普通の人が主人公になっていて、その人の温かさや人間味、人生まで垣間見える。単なるバラエティーの枠を越えて興味深く見た。
- * 大阪らしいユーモアにあふれ、関西の雰囲気醸し出す企画はどれも面白く、文句なしに楽しめた。
- * 「多機能ベストおじさん」のコーナーは、その人の持っているものから人生の一端を浮かび上がらせるという目の付けどころに感心した。また、登場した一人ひとりの話はどれも硬軟とり混ぜた内容で味わい深かった。
- * 何も考えずにゆったりと見られる番組でありながら、密度は濃くてクオリティーも高い。また、企画VTRを見たスタジオの出演者の機知に富んだツッコミも光っていた。
- * “ええかっこしない関西人”、“背伸びしない関西人”という要素が番組

全体にあって、そのローカル感がとても心地よい。

- * 「シェフのご褒美飯」のコーナーで素人同士のやりとりを取材した際、あらかじめ撮影の段取りをつけていることが透けて見える場面があったのはもったいなかった。
- * 今や取材ディレクターにも聞き手としての“しゃべりの腕”、つまり話を自然に引き出す技術が求められているが、言葉遣いや話し方で若干気になる点があった。
- * 番組の肝である“素人さん”がとてもよかった。自分が求められているリアクションをサービス精神でやってしまう。あらためて関西の人のノリのよさを再認識した。
- * 深夜にいったいどういう人がこの番組を見ているのだろう。全体にやや男性目線の番組という印象を受けた。
- * この番組を成り立たせているのは、取材に応じたときに表れる大阪の人の人懐っこさだ。東京では難しいだろう。
- * MCやアナウンサーが、ゲストを紹介するときなどに“カンペ”を見ていたのが気になった。
- * ナレーションや字幕テロップも“とんがって”いて面白い。言い過ぎではないか？書き過ぎではないか？と気になるところもあったが、そこは黒田さんがコメントで和らげる。そのバランスもよかった。
- * 「多機能ベストおじさん」のコーナーをはじめ、あちこちに入るツッコミが心の中で思っていることと一致して非常にフィット感があった。大阪的なノリのよさが番組全体に嫌みなく、また、はしゃぎ過ぎることなく出ていたと思う。
- * スタジオのトークで一番面白かったのはやはりメッセージの二人のやりとりだった。掛け合いをもっと聞きたい。

【番組制作者側の説明、質問等への回答】

- *この番組は、取材対象の多くが世間一般の人々で、現場で出会う人に話を聞いてみるまで、どう展開するか分からない。しかし、たまたまそこにいた人が主人公になり、出演者としてウィットに富んだ、ペーソスあふれる涙あり、笑いありの輝きを放つ。そんな可能性をもった番組と考えている。
- *今回、多くの委員に評価していただいた企画「多機能ベストおじさん」も、あえて“何が出てくるのかわからない”素人の面白さというところにこだわっている。そうして出てきたものの中から、ときに人生が垣間見えたり、「私と一緒にやわ」という共感をおぼえたり、「こんな人がいるんだ」という驚きを感じてもらえたらと思っている。
- *ご指摘いただいた「段取りくささ」は、コーナーによって取材方法が違うところからきている。「多機能ベストおじさん」はまさに現場で出会った人だけで勝負しているのに対し、「ミシュラン星持ちシェフ」は事前に打ち合わせをしたうえで撮影するという全く逆の作り方だったこともあり、リアリティーにやや欠けることになった。
- *制作者側としても、やはりスタジオでのメッセンジャーの二人のやりとりが一番おもしろいと思っている。二人そろって出ていることはこの番組の一つの武器。今後に生かしていきたい。

以上